

子どもは生まれてから『く・ねる・あそぶ』という基本的な生活を通して、人や自然、社会など地球とつながりながら成長していく。全力で関わる経験をして自分自身を知り、その後他者を知っていくのではないかな。

C グループ



生きる力、折れない心を身につけてほしい。子どもたちに何かあったとき、大人は「介入」ではなく解決のサポートをするという気持ちで対応していけたらと思う。

けんか、うまくいかない事、トラブルはチャンスにもつながる。役割を見つける中で折り合いをつけたり、采配をつける事、自分がゆずれない事を知っていく。これが成長につながるのではないかなと思う。

子どもが迷った時、吐露できる関係性が、家族や地域の中でできるとよい。

大人はいい子を求めすぎているかな？「ダメでしょ」ではなく、「何してるの？」というような、子どもがしている事に興味をもった語りかけができるとよいのではないかな。

4つの項目をテーマに！

『健康』 『心』

『個性』 『地域でできること』

D グループ



元気な体！自然体験をたくさんしてほしい。放課後安心して遊べる場所があるとよい。地域の人と子どもがお互い顔がわかっていると安心。

あきらめない心をもってほしい。注意されて心がポキッと折れてしまう大人、病休する大人が増えた。竹のようにしなやかな心を持ち、強風でも受け流す力をつけてほしい。そして、心が折れた時にそれを乗り越える経験をしてほしい。

自分の「好き」を見つけてほしい。クリエイティブな考えは大切。それが稼ぐ力につながってほしい。

がんばり続けると疲れてしまう。時には脱力してのんびり生きてほしい。そして、地域を大切に思う子、地域を活性させ中心になって動いてくれる人になってほしい。

『今現在の子ども』 『将来どうなっていきたいか』 『大人がつくる地域の環境』の3つをテーマにして、幅広く話ができた。

昔は理不尽な大人がかなりいたが、最近はいないなあと感じる。学校の先生や保護者以外の地域の大人をいかにからめていき、子どもが自分たちを守ってくれる大人がいるという認識をもてるようになるとうい。

E グループ



思い通りにならない経験をどうしていくか。失敗で終わらせる・なくすのではなく、受けとめてもう一度チャレンジして成功体験にしてほしい。そのために大人・地域は、うまく見守ることで子どもは育つ（育てるではなく）と信じる。最終的には思いやりを持った人に育ってほしい。

子どもには、叱られることも怒られることも経験してほしい。大人は、叱る事と怒る事をしっかり分けて考えて指導していけたらと思う。

『叱らないことが子どもを苦しめる』という本がとてよかった。

小さい子から大人になるまでの話がで、『これこそ地区懇談だ』と改めて感じた。

小さい子の例で、「前を向いて」と聞いて後ろを向く子がいる。その子にとってはそれが前であって、その子なりの理由や見え方があるという多様な視点を尊重する大人の余裕が大切であるのではないかな。